

にじいろのパレット

令和元年 8 月

第 13 号

① 入所されているご本人の生の声 (2)

② 退所された方のご家族の生の声 (2)



① まず身内がいなくて一人暮らし、生活保護を受け、身元引受は公的機関となっている男性です。地域包括支援センターより相談を受け、自宅はアパートの2階で階段の上り下りが必須とのことですが、現在は車いすを自分で使用し、移動されています。

・現在の入所期間…3か月(1階 一般棟)

・入所の理由…「皆が心配してくれましたよ」

→入所前は入院していたが、一人暮らしをケアマネジャーや周りの人が心配して、リハビリをするように言われ入所した。

・施設で心配だった事…「心配なかったよ」

→入所前の病院にも何度か訪問し本人と面談、担当者(ケアマネジャーや看護師)も「安心な所だよ」と声をかけてくれ、本人も問題なく入所生活につながった。

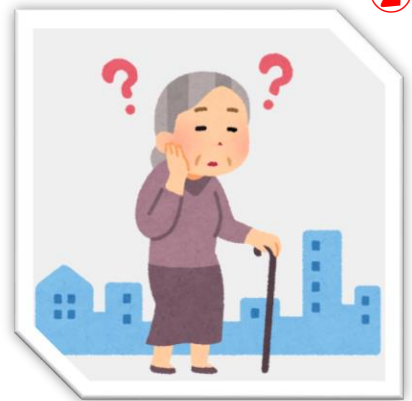
・今後の目標…「特には…安心できばそれで」

→元々は自宅へ戻るために、リハビリを行うという目標だったが、入所当時から本人はリハビリに消極的だった。関係者の方々と話し合い、今後、本人の生活しやすい所を見つけていく方向で支援している。



②

次に長男と二人暮らし、お身体は元気ですが、一人で電車に乗ったり、出かけるに戻って来られない、火の不始末があるなどの問題があるため、家族が困って相談のあった女性の家族です。



・入所期間…6か月(認知棟)

・退所先の決め手…入所の期間も長くなってきた、色々な施設の話聞いた。

その中でも、また虹の郷すわへお世話になる方法が聞けたため、その方法をとるためそこにお世話になることにした。

・施設でよかった事…家では外にでていってしまうことが多かったが、入所中は行動を本人が取らなかつたので、ほっとした。

・施設で心配だった事…一度出たら、もう利用できないのかと思っていた。せつかく本人も慣れているし、自分としても近いし、またお世話になりました。最終的に方法があることが分かって安心している。

昨年12月の第5号でもお届けした、本人や家族の生の声第2弾となります。上段の男性は一言、二言お話しされる方なので、相談員の方で補足を加えています。お二人の入所期間とも、「期間三か月きっかり」ではなく、「その人の置かれている状況に合わせて、次を考えていく」対応をとっています。ご本人やご家族の状況と、施設で可能・不可能なことを話し合いながら、その人らしい生活を送れるようお手伝いをしています。今後も、皆様と共により良い対応が行えるよう、ご意見お待ちしています。(全色・赤…本人家族・皆様向け)

(連絡先・発行元)

QRコードはこちら

〒374-0036

群馬県館林市諏訪町 1509



医療法人康生会(社団)

介護老人保健施設 虹の郷すわ

相談室

Tel:0276-71-0123

Fax:0276-71-0125

Url:https://tsutsujimental.jp/sw/